

2011.3.1

Contents

日本の木で家をつくる

- HABITAな風景
- 住まいは巢まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住まい文化の葉
- 住健住康
- Green Earth
- わたしたちのHABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM

連載



早起き

今日は、自分時間を
楽しむための早起き。
まだまだ朝は寒いけど、
早起きをすると、
なぜか自然と
やる気が出てくる。
よーし、がんばるぞ、
と、いう気持ちになる。
時間の余裕が気持ちの
余裕になるのだろうか。
早起きが
苦にならないところに気づくと、
自分でも少し年をとったな…
とも思う。
家についたのは、夕方前。
庭で遊んでいた子どもたちにつかまって、今度は家族時間。
休みの日くらい
ゆっくりさせてくれよ、
と思えることが、
実は幸せなのかもしれない。

三澤 千代治の

住まいは巢まい

日本文化の再構築

今年も、あつという間に、桜の便りが聞こえる時期になりました。昨年は、平城遷都1300年でした。旧聞となりますが、ある業界の新年会で、大変受けがよかった話を紹介します。政治がきちんとしていないという話を受けて、「遷都1300年以来、政治がうまくいったことがない。今、景気が悪いのは、業界それぞれが、しっかりしなければならぬ」というご挨拶で、会場は爆笑でした。

“これからの日本に必要なことは何なのか”

私なりに言わせていただくなら、それは「日本文化の再構築」ではないかと思っています。

幸いなことに、日本には長い歴史があり、世界に誇れる文化があります。この長い時を経て培われた文化を高めていく「日本文化の再構築」こそ、これからの日本の方向であり、姿だと思えます。

住生活においても、戦後の核家族化、洋風化、女性の社会進出などの流れの中で、いつの間にか見失ってしまった優れた文化がたくさんあります。住まいづくりにおいても、住文化の再構築が必要になってきているのです。

文化とのかかわりが深まる住まいづくりを推進し、それをグローバルスタンダードにしていく目標をたてる必要があると思っています。

HABITAのテーマは、「習いは古きに、創意は新しきを」です。

(MISAWA・international 社長)

Weekly HABITA 046

日本の木で家をつくる

見本

家を建てるのなら、住まいづくりの心が、それが日本人の心を表しているようにも思います。世界最古の木造建築物で世界遺産にもなっている法隆寺を保有する国の民として、木で家をつくる気持ちを忘れることはありません。また、国産材の危機が叫ばれている現在、日本の木で家をつくり、その木を使った家を子々孫々に伝えるためにも、檜・杉・松と言った日本の木を少しでも深く知ることが大切です。あらためて日本の木で家をつくることの魅力に迫ってみました。



森林の国、日本。

クールジャパンとして、日本の良さを世界にアピールする時代になってきています。技術の先進性や、高品質性・安全性に加えて、アニメやファッションなどの文化が日本の強みとして紹介されています。さらには歴史や国民性も世界に自慢できるものであり、観光立国としての可能性も高まりつつあります。

こうした日本を訪れた海外の人の言葉から、海洋と山林の豊かさの話がよく聞かれます。南からの暖かい海流によって、同じ緯度では考えられないほどの穏

やかな気候が森林を育てています。そしてこの森が海外の観光客にとっては、奇跡の風景として映っています。

中欧アルプスに暮らす人々は、岩肌が露出し氷の貼りついた険しい山の風景と比べ、日本の山のように頂まで樹木の覆われた姿に関心を示します。アメリカ大陸から来る人も、すっかり開拓しつくされ大農場の風景に馴染んだ目には、日本の森は新鮮です。

これらのことを端的に表しているのは、森林率です。国土に占める森林の割合を表し、日本は約70%と世界的に見ても大きな割合を占める国です。アメリカの森林率は25%ほどです。

特に西部は岩山と砂漠が広がり、草も生えていません。意外なことに木材を大量に輸出しているカナダも、アメリカと同じ森林率です。

隣国の中国や、オーストラリアではさらに森林率は低く20%しかありません。そればかりが深刻な砂漠化に頭を悩ませているところ。世界一の国土を誇るロシアも実は、森林率は50%にとどまります。

一方、林産国である北欧は、日本と同等の森林率を誇りますが、日本のように豊富な樹種の樹木は育てていません。日本の紅葉が美しいのも、様々な色が混ざりあって広がっているからです。



日本の木で家をつくる



日本の樹木、木材。

日本の森は天然林の豊かさだけではありません。有数の人工林の保有国でもあります。植林の歴史をひも解けば、『日本書紀』にまでさかのぼり、戦国の武将達は城郭建立の大切さをわきまえて植林に力を注ぎました。有史以前にも三内丸山遺跡では、栗の木を畑にしていたと言われます。

昭和の大戦で荒れてしまった山林にも、盛んに植林が行われました。その植林を重ねることで1990年代の半ばには、木材の蓄積量では天然林の量を人工林が超え、今でも増え続けています。山に育つ樹木が1年に1本ずつ増やしている年輪を合計すると、1年間に9000万㎡の木材が国土に増加しているという林野庁の調査もあります。その量は林業立国をしているフィンランドの8000万㎡をも凌ぎます。

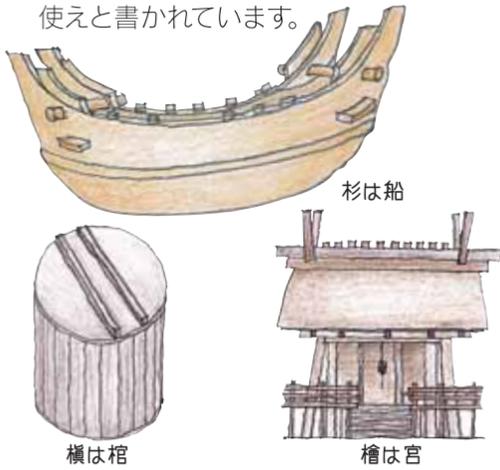
長い歴史の中で植えられてきた樹種の多くは針葉樹の檜や杉や松などです。そして各地で様々な銘木もとれるようになりました。木曾や東濃の檜。北山や吉野の杉。中国地方には良質の地松。信州や北海道のカラマツ、青森のヒバなど。さらに細かく見れば数えきれないほどにあり、それぞれに特長があります。

中でも杉は、より多くの地域に植えられて育てています。現在では宮崎から鹿児島にかけての**欽肥杉**が一番の材積量を誇ります。いずれも木の国日本を代表する樹木であり、木材として活用されているものでもあります。

「家を建てるのであれば、檜」という、言わば都市伝説のように語られているのを多く聞きます。しかし適材適所の言葉が残るように、材も樹種によってそれぞれに良さがあります。現実的には古民家を見ても、檜に特化

されているわけではないようです。

原点として考えられるのは、『日本書紀』の中に「檜は宮殿をつくる材」と書かれていることにあるのかも知れません。神話の世界の植林は、スサノオの尊が体毛を抜いて大地に投げることで、杉は髭から、楠は眉、檜は胸毛から生えて来たこととあります。日本の木は尻の毛から生えます。また、それぞれの材の使い方も記されており、檜は宮に使い、杉や楠は船に使い、楠は棺に使えと書かれています。



事実、伊勢神宮を始めとして神殿には檜が使われることがほとんどで、船には古くから杉や楠が使われていました。また棺に使われてきたコウヤマキの木は、実は土中の腐食にとても強い木です。日本人が長く木材と付き合い合ってきた歴史が、知恵として凝縮され神話になっているのです。その意味で、「檜づくりの家」に憧れるのも当然のことのように思えます。



ひのき 檜か、杉か。

ところが「檜づくりの家」には、もうひとつの傾向があります。この憧れが港町などの海沿いに強く残っているというのです。どうやらこの伝承も、先の「日本書紀」の記述に起源がありそうです。

それは日常的に船に命を託している海人の気持ちになって、陸の家と海

上の船とどちらが大切なのか考えてみれば解ります。必然的に過酷な条件の下で命を預けることになる船の方が、優先的につくらなければならないものです。しかも木材との長い付き合いの経験から、杉は折れにくい木材であり、船にするのに安心感があります。『日本書紀』に記された通り、船は杉や楠でつくるべきものであり、これらの材を使って家をつくることはむしろ許されないことです。杉よりも檜でつくるのが妥当なのです。

それは『日本書紀』で、スサノオの尊の植林の逸話でも感じられます。杉は髭であり、檜は胸毛です。胸毛よりも、首から上に生えていて化粧にも使われることのある髭の方が、格としては上位の概念であったと考えられます。そればかりかその前段の記述では植林を急いだ理由が書かれています。それによると海を隔てた韓の国には船がたくさんあるのに、日本の国に武器となる船が少ないことを憂えて植えたとあります。ここでの船は「浮宝」と表記されています。その意味では、スサノオの尊にとって杉材を得ることは、当時の国家運営の基本でもありました。この杉材の宝を使って、船をつくらず家を建てることは許されなかったでしょう。この船の大切さを体感している海沿いの村落では、強く檜づくりの家の伝承が残ることになります。

不思議なことに、トルコにも同様に杉は船をつくるという神話が残っていると言います。また、世界でたった一つ国旗に樹形を表している国がレバノンです。レバノン杉も神殿と船をつくる材として崇められ、神聖さと不滅を意味して国旗に使われています。これらは地域の貴重な材として伝えられてきましたが、現代のトルコやレバノンでは伐採と砂漠化で絶滅に瀕しています。

逆に現代の日本は、余るほどの杉があります。しかもこの日本の杉の学術名が興味を引きまします。一般的にはラテン語がつかわれていることが多い学術名ですが、日本の杉の学術名はクリプトメリア・ヤポニカと名付けられました。ヤポニカ、つまり日本という名前が付けられたのは杉だけなのです。命名者にとっては、檜や松よりも杉が日本を代表する木だったのです。しかもその意味は、「日本の隠された財産」。私たちは先人が与えてくれたこの財産を大切に活用しない訳にはいきません。しかも現代では、この折れ

にくい材を住宅に使うという贅沢ができるのです。



新しい木に生まれ変わる

植林された樹木で、もう一つ着目したいのはカラマツです。樺などの樹木と同じように、荒れ地には真っ先に進出する樹種の一つです。

このカラマツと杉に共通するのが、乾燥しにくい材であるということです。木材の強度や耐久性には乾燥を欠かすことはできません。その乾燥においては扱いにくい木材の仲間ということです。

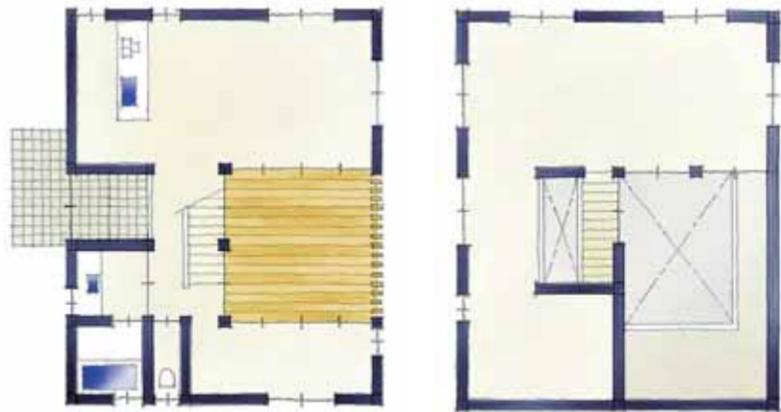


しかし同じ乾燥でも、この2種はそれぞれ違った特性で乾燥しにくい材です。杉は水分の保持力が強く、なかなか乾燥させにくい木ですが、カラマツは乾燥することによって癖が出て歪みやすく、使い方が難しい木なのです。樹木はねじれながら生長しますが、カラマツは特にこのねじれが強いのです。原木ではまっすぐに見え、断面の年輪は均等に見え、製材して板目が通っていても、育ってきた筋はねじれているので乾燥すると歪みが出てきます。カラマツの乾燥材を見ると、ひびや割れ目が斜めに入るのでこのことが良く解ります。和紙をこよりにしたり、荒縄をより合わせると丈夫になるように、カラマツは大きな縄のような強さを発揮します。

これらの乾燥しにくい杉やカラマツを、うまくコントロールして利点を引き出すウッドエンジニアリングが現代では可能になりました。それが集成材です。乾燥した杉が集められて折れにくい大断面の杉の柱や梁が可能になり、癖を押さえたカラマツの乾燥材が実現できるのです。日本に育つ森の樹木も、様々な形で最大限に有効活用する事ができ、財産になる時代がきました。日本の森の木でつくる、日本の家を住まいづくりのコンセプトにしてみませんか。



キニナルマドリ



1階 20坪

2階 13.5坪

SEVEN LIVING ROOMS

16畳のリビングに、5畳のリビング。この2つのリビングを、8畳のSORA・MADOリビングが結び、階段のリビングを合わせると33畳のリビング。

もはやリビング=居間の定義では収まることはない。それには各スペースにさまざまな椅子を置いて想像してみたらよい。座る椅子によって違うリビングになる。

それは2階も変わらない。高い天井のリビングと、低い天井のリビング。そして天井のないリビング。

今日はどのリビングで、お気に入りの椅子と時間を過ごそうか?



HABITA 家・スタイル



住まいのオーダーメイド館

デスクベッド

「机」と「ベッド」という、それぞれのスペースが必要であったものを、ひとつのスペースにできる画期的新機能のデスクベッドです。

勉強、仕事をするときは「机」として、寝るときは作業スペースをそのままにして「ベッド」に早変わります。テーブル天板は、ストレスを感じさせない超ワイドなスペース。

機能のみならず高級感溢れるモダンなデザインファニチャーです。

書斎と寝室を兼用したい、子供部屋のスペースを有効に使いたい、リフォームで部屋を広くすっきりさせたい、学生寮、ホテル、病院のゲスト用工

キストラベッドとしてなど、使うシーンがひろがっていきます。テレビ東京「WBS『トレたま』」で紹介されました。

サイズ:W2240×D650/1050×H1447mm
マットレスサイズ:W900×L2000mm(シングルベッド仕様)
カラー:お好みの色で製作が可能
商品価格:¥700,000(税込)
403掲載商品No. G-0213_030

住まいのオーダーメイド館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
<http://order403.com/>

403



住まい文化の栞

クジラ・シャチ・カツオ

建築の世界に動物の名前を探すと、昔の人の思いがわかります。これまでにさまざまな部位や道具に使われている動物の名前から、いにしえの人々の想像力を感じてきました。今回は、水の中に生きる動物達の名前を探してみます。

海の中ではもっとも大きい鯨の名前は物差しくじらさしの名前に使われています。「鯨尺」とか「鯨差し」と呼ばれているものです。しかし、残念ながらこれまでのテーマにあるような建築に使われる道具ではありません。裁縫の用具として使われる物差しで、通常の尺よりも2尺5寸長いものです。大きなところから鯨と呼ばれると思いきや、昔は鯨の鬚ひげで作られていたことから付けられた名前です。

海の中で鯨の次に大きな動物は鯨しやちです。「鯨鯨」と言えば、お城の天頂にある棟の両端に据えられた飾りを思い出す人も多いことでしょう。まさに魚編に虎と書くような、古代の想像上の動物として造られています。塔の頂部に水煙の金物が飾られるように、水に関連



する動物を置くことで、火災を防ぐ気持ちを表しています。

魚の種類としては鯨くじらを見ることできます。鯨鯨と同じように神社建築の本殿頂部、棟の上に水平に並べられた部材のことを鯨魚木くじらぎと呼びます。確かに見ようによっては、まるで鯨節くじらぶしが並んでいるようにも見えます。古墳時代よりも以前には、壇輪はにわにもあって一般的な住居にも見られたようですが、時代が下ると神社にしか見られなくなりました。

歴史や文化というのは、人とその営みの積み重ねがあつてこそできあがるものです。もちろん建築も例外ではありません。無尽蔵とも思える言葉の中にも、先人の気持ちが込められていることを知ると何事も大切にしておきたくなるものです。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

塗り絵は脳の活性化

塗り絵ぬりえといえば、子どもの遊び道具だと思われがちですが、最近では、手軽に脳を活性化できることから、大人も楽しめるものがたくさんあります。

そこで、高齢者でも色鉛筆があれば簡単に始められ、脳への刺激、癒し効果もある塗り絵を家族で楽しんでみてはどうでしょう。

塗り絵をするときのさまざまな動作によって、脳が活性化されるのは多くの研究で証明されています。まず、お手本を見る際には、視覚をつかさどる後頭葉が刺激されます。続いて、お手本を正しく把握するために、以前見たモチーフの記憶を参考として呼び起こそうと、過去の記憶全般を蓄積している側頭葉が働きます。

さらに塗り絵全体のバランスをつかむために空間認識を行う頭頂葉も作用します。そして、計画立案や創造性などに関係している前頭連合野へとその情報が送られます。



年をとると、なかなか褒められるという場面に遭遇しなくなります。しかし、塗り絵によって褒められる気持ち良さを思い出せば、ほかのことにも意欲をもってもらえることができます。

子どもは、色彩感覚と創造性の発達に、高齢者は脳の刺激で認知症予防に。塗り絵ひとつでも、家族のコミュニケーションと健康につながります。家の中でできる何気ないことが、脳の活性化になることが分かれば、積極的に取り組んでみたいものです。

アンケートにお答えいただいた方に

お部屋のレイアウトやインテリアのコーディネートに役立つ、「HABITA ドットシート」を20名様にプレゼント!

プランづくりに挑戦!



HABITA ドットシートとは
このシート上に実寸の1/100の縮尺で間取り図(プラン)を描いていただき、お持ちの家具の寸法をはかって手描きで配置ができます。購入予定の家具を自由にレイアウトしたり、間取りを考えたりと、新しい家づくりに役立ちます。

応募方法
官製ハガキに(1)住所・氏名・電話番号(2)年齢(3)職業(4)性別(5)本誌以外の購読誌(6)今までのおもしろかった記事とその理由(7)その他特集してほしい記事や内容など、以上をご記入いただき、下記係までご応募ください。
当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1
MISAWA・international株式会社
「WeeklyHABITA プレゼント係」

Green Earth

世界一人工林大国の日本で、 やっと二酸化炭素吸収均衡国？

地球温暖化問題について、科学的な評価、助言を行う国際機関であるIPCCによると、20世紀中の年平均気温の上昇は約0.6℃であったと報告されています。今後2100年までの間に、1.4~5.8℃の気温の上昇、平均海面水位が0.09~0.88m上がると予想されています。また、気象庁の調査結果によると、100年間で、日本の平均気温は約1℃上昇し、中でも東京では3℃上昇しました。

ソメイヨシノの平均開花日は昨年より3.2日早くなったほか、イロハカエデの紅葉日は約2週間遅くなっています。今後、地球温暖化がさらに進行することにより、極端な乾燥や大雨が増加し、干ばつや洪水などの危険性が増すことや、生態系の破壊、食料生産への影響、熱帯病の増加等、広範な分野において様々な影響が懸念されています。

この地球温暖化の原因とされるのが、温室効果ガスといわれる二酸化炭素やメタンなどの濃度の上昇です。これからも、人類が同じように二酸化炭素の排出を続けていくと、21世紀末には現在の2倍以上の濃度になり、その結果、

気温もさらに上昇すると予測されています。

このような状況の中で、森林による二酸化炭素の吸収能力に関心が高まっています。森林は、その成長の中で、二酸化炭素を吸収し、幹や枝等に長期間にわたって蓄積することから、二酸化炭素の吸収源としての役割とともに、貯蔵庫としての期待も大いにあります。

日本の1世帯当たりの二酸化炭素排出量は、年間約6,500kg、それを吸収するために必要な杉は460本、森林0.5haです。日本の人工林は、2,515万haなので、5,030万世帯分の二酸化炭素排出量を吸収できることになります。現在の日本の世帯数は約5,000万世帯ですから、一見、均衡がとれているようにもみえますが、前述の数字には、産業活動分の二酸化炭素排出量は含まれていません。世界一の人工林大国といわれる日本で、やっとこの状態です。バランスがとれているようで、実はまだまだ追いついていません。



大黒柱のある家

「HABITAの家を見たとき、自分の住んでいた新潟の古い実家を思い出しました。吹き抜けになっていて屋根が高い。太い五寸柱に触れた時、身体が覚えていたのでしょうか。とても良

いなと感じました。」

埼玉県にある提携企業、伊田テクノスが施工したお客様宅にお伺いした。「昔から大黒柱のある家に住みたいと考えていました。五寸角の太い通し柱に大変満足しております。また屋根が高く、壁で仕切っていないので常に家族の息遣いが伝わるのが良いと感じています。」

なぜマンションではなく戸建を選択されたのかという質問では、ガーデニングが趣味という話題になり、実際に育てている様々な草花を紹介して頂いた。緑溢れるポーチと裏庭に御夫婦の笑顔が似合う素敵なHABITAだった。

住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

HABITA/TV

詳しい内容は、HABITA/TVの4ch、「伊田テクノス お客様インタビュー」で紹介しています。



結露も大切な機能

窓に付いた、たくさんの水滴。窓に結露が起きるのは、空気中に水蒸気がいっぱいある状態なんだ。無理に結露を起ささないようにすると、タンクや押入れの影でひっそりと結露をおこして、カビの原因にもなってしまふ。

逆に乾燥しすぎるのは、身体には良くないこと。

肌や喉、実は血液の流れもドロドロになってしまうこともあるほどなんだ。結露が気になるときは、しっかり換気しよう。

市場主義的な発想の影響下にあるような気がしてなりません。本来の日本は、文化や、生きていく、暮らしていくというプロセスに対してじっくりこだわって大切にする姿勢があったはず。今、そうした日本の文化や本来持っていた自然観や自然と共生する暮らしの知恵を、もう一度見直す時期だといえます。人の五感をフル活用して植物に親しみ、おいしく食す食文化の提案や、もっと身近に家

庭づくりを通して出来る暮らしというのは「じっくりこだわって楽しむ」という意味でのスローライフではないでしょうか。人が動物として、最も無理の無い生き物のスピードに戻れるときです。

一方で、ファーストフードに代表される速さや効率、成果だけを優先する概念は、人間が作った経済

庭菜園を楽しむ方法など、日本文化を新しい視点で見直す絶好の時期ではないかと思えます。

家を建てたり、リフォームすることの意味は、よく考えれば自分たちの本物の暮らし方を見直せる絶好の機会でもあるのかもしれない。



本物の暮らし

京都の暮らしでは四季を楽しむことを大切にします。季節ごとに部屋のしつらいや料理の器を変えて四季を味わうのです。何も高い料理を食べることが贅沢や豊かさではないと思えます。季節感を楽しむ暮らしこそ本物の豊かさです。

庭や畑は子どもたちの勉強の場でもあります。今、流行っている家庭菜園ですが、例えばトマトを挽いで食べることで、本物のトマトの味を味わい、野菜は地面から生えてくること、食べるためには種をまいて植物を育てることが必要



「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ!



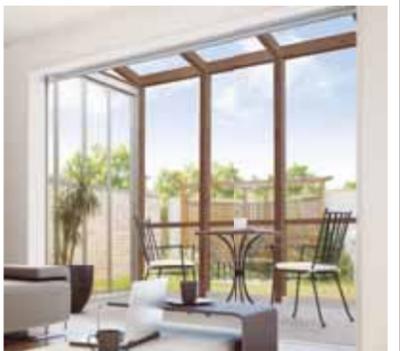
折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。



ライティングをプラスして、夜でも快適なつるぎの空間をつくれます。



屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもう一つのリビングとして。



やすらぎのある空間づくり
株式会社タカショー 和歌山県海南市南赤坂20-1 〒642-0017 お客さまサービスセンター 0120-51-4128

